

「令和7年度第1回まちづくり専門家会議」のご案内 vol.2 (R7.7.15)

「講演にあたって一言コメント」を追加しました

令和7年度第1回まちづくり専門家会議を次のとおり開催します。

センターでは、住民主体のまちづくりを推進する市町を支援するため、『まちアップ支援事業』を実施し、まちづくり専門家を派遣しています。

また、「まちづくり専門家バンク」を設置し、まちアップ支援事業で活用するとともに、市町によるまちづくり支援でも活用いただいています。

まちづくり専門家会議は、まちづくり専門家の業務内容や専門知識、課題解決能力を直に感じとることで専門家バンクをより有効に活用していただくというものです。また専門家と市町職員との交流の機会にもしていこうというものです。

センターは、まちアップ支援事業と当該専門家会議により、市町における協働と住民主体のまちづくりを促進したいと考えています。

みなさまの積極的なご参加をお待ちしております。

まちづくり専門家会議 web page https://www.hyogo-ctc.or.jp/business/land_2/

- ◆日 時 令和7年 7月23日(水) 13:30 ~ 16:45 (受付開始: 13:00)
- ◆場 所 まちづくり技術センター大会議室(神明ビル3F)(定員 30名)
Zoomによるリモート参加可
- ◆参 集 ①市町まちづくり担当等
②まちづくり専門家バンク登録者
- ◆参加費 無 料
- ◆申込み 電子メールで件名を「専門家会議参加」として所属・氏名・連絡先、会場 or リモートを選択して、メール送信(メールアドレス machicen@hyogo-ctc.or.jp) 願います。(先着順)
リモート参加者には追って、ミーティングルーム URL を送信します。
- ◆問合せ先 公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター まちづくり支援課 担当 豊嶋 尾崎
〒650-0023 神戸市中央区栄町通6丁目1-21 神明ビル5F
TEL 078-367-1262/1263



MAP

《プログラム》

13:30 《開 会》

13:40 《講 演》

- (1) 講師 北村 胡桃氏(株式会社 遊空間工房)
【兵庫県の地域づくりに惹きつけられて10年
新米アドバイザーが得たもの・目指したいこと】
- (2) 講師 溝呂木 百合氏(合同会社 人・まち・住まい研究所)
【地域とのつきあいかた・ささえかた】
- (3) 講師 山下 香氏(建築・まちづくり事務所状況設計室/
甲南女子大学文学部メディア表現学科)
【個人の知識・技能を他者と共有する場づくりを通じたチームビルディング】
～神戸市・豊岡市・高砂市での事例を通して～

※ 講演毎に15分間程度の質疑応答の時間を設けます。

《トークセッション》

16:45 《開 会》

講演にあたって一言コメント

講師の方々から、講演内容について事前に一言コメントを頂きました。

なお、講師のプロフィール等については、当センターweb pageに掲載の「まちづくり専門家バンク登録専門家一覧表」をご覧ください。(右のQRコード、または、https://www.hyogo-ctc.or.jp/ctc/business/land/land_6_01.html)



北村 胡桃氏 「兵庫県の地域づくりに惹きつけられて 10 年 新米アドバイザーが得たもの・目指したいこと」

1 年ほど前に専門家バンクに登録した新参者です。西宮市出身、1996 年生まれ。兵庫県立大学環境人間学部、兵庫県立大学大学院修士課程修了。現在は(株)遊空間工房のスタッフ、NPO 法人神戸まちづくり研究所の事務局長として住民主体のまちづくり支援に関わっています。大学 1 年の授業で地域づくりのフィールドワークに参加したことをきっかけに地域にハマリ、兵庫県の各地を巡り現場を見てきました。兵庫県の多様な地域性、出会う人々に魅了され、「地域のために奮闘する方々の想いを知りたい、関わりたい」という考えを持ち続けて今に至ります。経験値は他の専門家の皆様の足元にも及びませんが、これまで見てきた現場からの学びをお話します。こういう変わった人間もいるんだ、ということだけでも知っていただければ幸いです。

溝呂木 百合氏 「地域とのつきあいかた・ささえかた」

2019 年に山梨から神戸へやってきました。山梨では自宅事務所で、設計事務所を主宰したり、仲間と一軒家を借りて「つどい場」を運営したりしていました。住んでいたのは、まさに「アドバイザー」が必要になるような山の中。私はここで「地域の、集落の自立とは？」ということに向き合うことになりました。

神戸に来て 7 年目を迎えました。数えてみると、7 年でおおよそ 50 の地域と関わったことになります。地域に入って現場を主導するのは私の役割ではありませんが、門前の小僧として現場へ出向き、ずっと裏方から地域を見てきました。また、限界集落の居住者として、「支援される側」の経験もしてきました。

アドバイザーの目と、支援される側の目で見えるものをそれぞれ並べて、お話ができたと思っています。

山下 香氏 「個人の知識・技能を他者と共有する場づくりを通じたチームビルディング」 ～神戸市・豊岡市・高砂市での事例を通して～

発表者は 2005 年より神戸市で地域資源を発掘し、「おかんアート展」や「下町遠足ツアー」など、常設ではない場を通じた活動を展開してきた。作家たちは展覧会の企画・運営に関わる中でチームを形成し、他地域への支援やワークショップの実施にも取り組んでいる。また高砂市では、市民・大学生・図書館職員が協働で地域資源を発掘し、チーム単位でまちあるきツアーを企画・実施するようになっている。こうした活動は、趣味的な創作活動を媒介として他者とゆるやかにつながる場を創出するものである。また、個人が蓄積してきた知識や技能を自分の内にとどめず、他者と共有し、アウトプットとして表現していくことは、生涯にわたり個人における人間的開花に重要な意味を持つ。今回は、ツアーや展覧会といった常設ではない共創的な場づくりを通じたチームビルディングの実践について、神戸市・豊岡市・高砂市の事例をもとに紹介する。